

第4学年 総合的な学習の時間指導案

1. 単元名「出会い♪ふれあい♪〇〇の町」

2. こんな子どもだから

- 本学年の子どもたちは、自分の知らない世界に対する知的好奇心が強く、課題を解決することに意欲的である。地域の人から話を聞く時には、伝えたい内容だけでなく相手の気持ちも理解できるようになっている。しかし、相手の願いを共感的に受け入れるまでには至っていない。
【主体的、創造的な態度】
- これまでの総合的な学習の時間や教科の学習を通して、課題解決のためには、図書館を利用して文献を調べる、インターネットで情報を集める、実地の取材をするなどの方法があることを理解している。しかし、表現活動では、調べてきたことをまとめたり、聞き手を意識せずに一方的に話したりすることに精一杯で、活動してきたことを振り返りながら、自分の変容に気付いたり、自分の思いや考えを伝えたりすることについては、十分ではない。
【問題解決にあたっての学び方】
- 道徳「町に出た音楽家たち」を学習することを通して、□□□クラブや知的障がいのある人の生き方について学んでいる。また、〇〇校区にある〇〇福祉タウンの「〇〇ふれあいまつり」やイベントのボランティアに参加している子どもたちもいる。しかし、実際に障がいをもっている人と話をしたりかかわったりする経験をしている子どもは多くない。そのため、障がいのある人、支援している人、ボランティアの人の願いに気づき、自分にできることがあるかと考えるまでには至っていない。
【自己の生き方への自覚】

3. こんな教材で

- ① **本質性**
本単元は「手と心で読む」(国語科)の学習の発展で、「出会い♪ふれあい♪〇〇の町」と題して、校区にある障がい者のための公共施設である〇〇福祉タウンを取り上げる。〇〇福祉タウンにかかわる人々とのふれあいを通して、相手を理解したり思いやりたりする心が育つと考える。
- ② **課題性**
共通課題(課題1)から、障がいのある人とそれを支援してる人の両側の視点から課題解決に向かって活動していく。そして、課題2を設定し、自分たちにできることは何か考え、実践することができたり、地域の人に喜んでもらえたりした時、有用感・有能感を実感できる場となると考える。
- ③ **発展性**
〇〇福祉タウンにかかわる人々から、誰もが同じ社会の仲間として理解し合うことが大切だという考えを学び、その「受けた」ことを大切にして地域に「返す」活動することで、有用感をもち、これからも地域とかかわろうとする行動につながると考える。

4. こんな支援で

- 「受ける」段階
- 手話体験・点字体験・アイマスク体験・車いす体験をすることを通して、身体が不自由なことがどんなことかを理解することができるようにする。
 - 福祉体験を振り返りながら交流会をすることで、課題1を設定できるようにする。
 - 障がいのある人が働く姿やスポーツを楽しむ姿に出会うことで、誰もが仕事をしたい、生活を楽しまたいという願いをもって生きていることに共感できるようにする。
 - つなぎの交流では、自分たちの身近にまだ叶えられていない願いがあるという新たな視点に気付かせることで課題2を設定できるようにする。
- 「返す」段階
- パンフレット作りなどの活動は、〇〇福祉タウンの人の願いを「受けて」、「返す」活動であるという意識を持つことができるようにする。
 - 追究した「人」(GT)から活動を評価していただくことで、子どもたちが有用感・有能感を味わうことができるようにする。

5. こんな子どもに

- 〇〇福祉タウンのやさしさ見つけや障がいのある人との出会いに関心をもち、「やさしさを広げるために自分にできること」について自ら課題を見つけ、課題解決に向けて意欲的に追究しようとすることができる。
【主体的、創造的な態度】
- やさしい町という視点で〇〇福祉タウンを見たり、〇〇福祉タウンで活動する様々な人に進んでかわり話を聞いたりして、自分にできることを考えることができる。
【問題解決にあたっての学び方】
- 障がいのある人の願いに共感したり、支援している人の姿からバリアフリーの見方や考え方を学んだりして、自分にできることを考え、実践していこうとする意欲をもつことができる。
【自己の生き方への自覚】

6. 学習活動計画（計33時間）

段階	問題解決の学習過程	地域との双方向の関係づくりを成立させる支援	配時
受 け る	<p>1. 学習課題1について話し合う。 ⑥</p> <p>(1) 点字を打つ体験・アイマスク体験・車いす体験・手話体験をする。</p> <p>(2) 障がいのある人との交流会をして、学習の共通課題について話し合う。</p>	<p>※ 福祉体験を振り返りながら、交流会をすることで、障がいのある人の生活を想起できるようにする。</p>	4 2
	<p>課題1</p> <p>障がいのある人が利用する「〇〇福祉タウン」のやさしさについて調べよう。</p> <p>2. 自分の課題をつくり調べる計画を立てる。 ③</p> <p>(1) 「〇〇福祉タウン」に行く。</p> <p>○ どんな目的の施設か。</p> <p>○ 何のためにどんな工夫があるのか。</p> <p>○ 誰が利用して、どんな人が働いているのか。</p> <p>(2) 自分の課題をつくり、調べる計画を立てる。</p>	<p>※ 施設の方と事前に打ち合わせをし、利用者の活動や仕事を見せてもらったり、施設を案内してもらうようにする。</p> <p>※ 施設面のやさしさだけでなく、介助する人や施設で働く人のやさしさにも気付くようにする。</p>	2 1
	<p>3. 自分の課題解決に取り組む。 ⑥</p> <p>(1) 〇〇福祉タウンに行き、課題に沿って調べる。〈1回目〉</p> <p>(2) 中間交流会をする。</p> <p>○ 友達との情報交換の場として、アドバイスしたり、もらったりする。</p> <p>(3) 〇〇福祉タウンに行き、課題に沿って調べる。〈2回目〉</p>	<p>※ 障がいのある人の願いについて話を聞くことができるようにする。</p>	3 1
	<p>4. 報告会をする。 ④</p> <p>(1) 報告会の準備をする。</p> <p>(2) 報告会をする。</p> <p>○ 自分の取組</p> <p>○ 〇〇福祉タウンのやさしさ</p>	<p>※ 分かったことを整理しながらまとめさせることにより、施設ごとの違いと共通点を見つけることができるようにする。</p>	2 C組 本時 (3/4)
つ な ぎ の 交 流	<p>(3) 自分の取組を振り返り、これからの活動について話し合う。</p> <p>課題2</p> <p>「〇〇福祉タウン」で見つけたやさしさを自分たちの身近なところで広げよう。</p>	<p>※ 自分たちの身近にまだ叶えられていない願いがあるという新たな視点に気付かせることで、課題2を設定できるようにする。</p>	A組 本時 (4/4)
返 す	<p>5. やさしさを広める計画を立て、取り組む。 ⑪</p> <p>(1) 課題2解決のために、地域で自分が取組みたい内容を話し合う。</p> <p>(2) 内容別のグループで活動計画を書く。</p> <p>(3) 活動計画をもとに、取り組む。</p>	<p>※ 出会った人たちの願いを再度振り返り、「返す」内容を考えるようにする。</p>	2組 本時 (2/11) 1 8
	<p>6. 発表会をする。 ②</p> <p>○ これまでの取組の発表会</p> <p>7. 学習全体を振り返り、これからの生活について話し合う。 ①</p> <p>○ 障がいのある人とのかかわりについて作文を書く。</p>	<p>※ お世話になったG Tを発表会に招待し、活動を評価してもらうことで、有用感・有能感を味わわせる。</p> <p>※ これからやさしさを広げるためにできることを続け、誰とでも自然にふれあおうとする意欲をもたせるようにする。</p>	2 1

8. 本時の目標

- 「〇〇福祉タウン」から学んだことを地域に広げていくための、自分の取組を決めることができる。
【問題解決にあたっての学び方】

9. 本時指導の考え方

本時は、これまでの自分の学びを生かす内容について考え、これからの学習の見通しをもつことができるようにする学習である。

そこで、本時学習では、今までの体験を振り返りながら、〇〇福祉タウンにかかわる人から学んだことを改めて考え、地域に対してやさしさを広げていくために取り組む内容について話し合う。共通の場所で活動するグループで話し合いをすることで、取り組む内容や方法にアドバイスできると考える。その際、広げたいやさしさや学んだことを生かす取組の内容の考えがまとまらずに、活動が停滞している子どもに対しては、子どもと教師の「対話」を重ねたり、子ども同士の情報交換の場を設けたりする。このことで、自分の学びの伝える内容や方法について見通しをもつことができたり、友達の取組に共感したりすることができると思う。

そこで、本時学習の指導における目標達成のための主な支援は、以下の4点である。

- ① 共通の場所で活動するグループの友達から、広げたいやさしさや学びを生かす取組の内容にアドバイスをを受けたり、アドバイスをしたりすることができるようにする。
- ② 共通の場所で活動する友達3～4人でグループ構成することで、「広げたいやさしさ」「取り組む内容」という2つの視点から情報交換できるようにする。
- ③ グループでの話し合い後、子ども同士の情報交換の場を設定することで、友達の活動に共感することができるようにする。
- ④ 出会ってきた人たちの写真を掲示することで、障がいのある人や支える人の願いを振り返らせる。

10. 準備

(教師) 出会ってきた人の写真、前時までの学習を整理した掲示物

(子ども) 自己評価カード

1 1. 展開

学習活動と内容	評価規準	支 援
<p>1. 前時学習を想起し、本時学習のめあてを確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>課題2 「〇〇福祉タウン」で見つけたやさしさを、自分たちの身近なところで広げよう。</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>本時のめあて 自分にできることを考え、取り組むことを決めよう。</p> </div> <p>2. 自分が考えた取組について話し合う。 (1) 聞く視点を確認する。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>《 聞く視点 》</p> <p>① 広げたいやさしさ ② 取り組む内容</p> </div> <p>(2) 自分の考えた取組を伝え合う。 (①広げたいやさしさ ②取り組む内容)</p> <p>(3) グループで伝え合った取組を発表する。 ○ 障がいのある人を理解しようとする心を広げること。 ○ どんな人にも利用しやすい施設にすること。 ○ 障がいのあるなしにかかわらず、親しくなること。</p> <p>3. 自己評価カードを書く。 ○ 広げたいやさしさを伝えることができたか。 ○ 取り組むことを決めることができたか。</p> <p>4. 教師の話聞く。 ○ 子どもの学習への価値付け・賞賛 ○ 次時の学習の確認</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>今日の学習では、課題2を解決するための取組を決めることができましたね。(賞賛) この取組で、〇〇福祉タウンから学んだやさしさを広げることができますね。(価値付け) 次の時間は、これからの活動計画を立てましょう。(次時の学習の確認)</p> </div>	<p>【観点】 問題解決にあたっての学び方</p> <p>【評価規準】 ○ 広げたいやさしさを意識して考えた取組を話したり、友達のアドバイスを聞いたりすることで、自分が取り組むことを決めることができる。</p> <p>【評価方法】 発言・行動観察 自己評価カード</p>	<p>○ 広げたいやさしさが、今まで出会ってきた人たちの願いに合致していることを賞賛することで、有用感・有能感を実感することができるようにする。</p> <p>○ 情報交換した内容を全体で取り上げることで自分の学びを生かす方法を決められない子どもへのアドバイスになるようにする。</p>

8. 本時の目標

- 「〇〇福祉タウン」を見学してきたことを生かしながら、「〇〇福祉タウン」のことを地域にもっと広げたいという意欲を高めることができる。【主体的, 創造的な態度】
- 自分の見方・考え方の不十分さに気付き, 新たな課題を見いだすことができる。【自己の生き方への自覚】

9. 本時指導の考え方

本学級の子どもたちは, 前時までに自分が追究した課題について, 明確に伝えたり, 友だちの発表を施設の違いや共通点などに気をつけながら聞き, 自分の考えを深めることができている。また, 〇〇福祉タウンがもつやさしさについて, 障がいのある人や施設で働く人, 障がいのある人を支える人などの様々な人の願いに共感しながら見つけることができている。

そこで本時では, 前時までに校区にある〇〇福祉タウンの見学をし, やさしさのもととなっている施設の工夫などを見つけ, どんな目的でどんな人が利用しているかを見てきたことをもとに, 新たな課題意識をもつ, つなぎの交流の時間である。

本時導入では, 前時の最終交流会を想起しながら4つの施設それぞれのやさしさについて出し合い, 話し合う。その時, それぞれの施設の工夫をしてある設備の共通点や違いをはっきりさせる。そして, 〇〇福祉タウンを訪問をして分かったことをもとに, やさしさを広げるためにこれから自分たちの力でできる活動はないか話し合い, 新たな課題を設定する。

次に, この話し合いを聞いてくださったG Tに, 子どもたちのこれまでの取組について賞賛してもらい, みんなと一緒に〇〇福祉タウンで見つけたやさしさを身近なところで広げていこう, という内容を話してもらう。

そこで, 本時学習の指導における目標達成のための主な支援は, 以下の3点である。

- ① 4つの施設の写真や, やさしさをまとめた物・やさしくないところをまとめた物を掲示しておくことで, これまでの活動を振り返りやすくする。
- ② 障がいのある人や支援している人の, まだ叶えられていない願いが自分たちの身近なところにある写真を見ることで, 新たな課題に気付くことができるようにする。
- ③ G Tから子どもたちのこれまでの取組を賞賛してもらい, 一緒にやさしさを広げてほしいという願いを話してもらうことで, 今後の活動の意欲づけにする。

10. 準備

(教師) 4つの施設の写真, 出会ってきた人の写真, 前時までの学習を整理した掲示物, 願いが叶えられていない写真

(子ども) 自己評価カード

11. 展開

学習活動と内容	評価規準	支援
<p>1. 前時学習を想起し、本時学習のめあてを確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 前時報告会の内容を想起し、○○福祉タウンのやさしさを発表する。 <ul style="list-style-type: none"> ・ それぞれの施設には、利用する人の目的に合わせた工夫があること ・ 利用する人を支えている人のやさしさがあること <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>本時のめあて これまでの活動をふり返り、これからの活動を話し合おう。</p> </div> <p>2. これからの活動について話し合う。</p> <p>(1) 自分の活動をふり返り、どんな活動が考えられるか話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 障がいのある人への手助けをしたい。 ○ 自然なあいさつをしたい。 ○ 学んだことをみんなに伝えたい。 <p>(2) GTの話聞いて思ったことを話し合い、課題2を決める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 子どもの学びへの賞賛 ○ やさしさを広げてほしいという願い。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>課題2 「○○福祉タウン」で見つけたやさしさを自分たちの身近なところで広げよう。</p> </div> <p>3. 自己評価カードを書く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ これからの新しい活動への意欲をもてたか。 ○ 自分の身近なところで、叶えられていない願いがあることに気付くことができたか。 <p>4. 教師の話聞く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 本時学習の価値付け・賞賛 ○ 次時の学習の確認 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>今日の学習では、GTの方の話聞いて、やさしさを広げていくということは、障がいのある人や支えている人の願いと重なっていることに気付きましたね。(賞賛) 次の時間は、課題2の○○福祉タウンで見つけたやさしさを地域に広げるために、自分ができる内容を話し合いたいと思います。(次時の学習の確認)</p> </div>	<p>【観点】 自己の生き方への 自覚</p> <p>【評価規準】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 障がいのある人や支援している人の願いに共感したりすることで、新たな課題を見出すことができる。 <p>【評価方法】 発言・ノート 自己評価カード</p> <p>【観点】 主体的、創造的な 態度</p> <p>【評価規準】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 見学してきたことを生かしながら、清水福祉タウンのことを自分たちの身近なところに広げようという意欲を高めることができる。 <p>【評価方法】 発言・ノート 自己評価カード</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 前時までに学習した内容を掲示しておくことで、前時までの学習を想起しやすくする。 ○ 友達やGTからの賞賛をもらうことで、有用感・有能感を実感することができるようにする。 ○ 自己評価カードを書かせることで自分の活動を振り返り、有用感・有能感を実感できるようにする。

8. 本時の目標

○ 自分が追究した課題について、明確に伝えようとしたり、友だちの発表を施設の違いや共通点などに気をつけながら聞いたりしながら、自分の考えを深めることができる。

【問題解決にあたっての学び方】

○ 障がいのある人、施設で働く人、障がいのある人を支える人などの様々な人の願いとそのかわり方に共感しながら、〇〇福祉タウンがもつやさしさを見つけることができる。

【自己の生き方への自覚】

9. 本時指導の考え方

本時は、これまで自分が追究してきた課題について、自分が考えた表現方法で、自分が学んだことを伝え合い、友達やかかわった人の評価を受けることを通して自分の取組に対する有能感・有用感を高める場である。

本時では、今まで追究してきた課題が伝わりやすいように、どんな疑問を、どうやって追究したのか、誰のどんな願いにふれることができたのか、〇〇福祉タウンがもつ「やさしさ」とは何かを、具体的に丁寧に表現していくように観点をはっきりさせて発表させたい。そして、互いの成果を交流しあい、共感しあう過程で、障がい者理解に対する自己の成長を実感させたい。また、出会ってきた人から、共感的な評価を受けることによって、これまでの活動をやりとげた有能感や学んだことを今後につなげたいという有用感を高め、今後の主体的な課題追究の態度につなげたい。そして、次時、「〇〇福祉タウン」に集約されている願いを実現していくために、「自分も何かできないだろうか。」と主体的にかかわろうとする態度、意欲・関心を高めたい。

そこで、本時学習の指導における目標達成のための主な支援は、以下の5点である。

- ① 事前に、同一課題グループごとに中間交流会を行い、取組のよさや不十分さを指摘し合いながら、より充実した取組になるように修正・強化することによって、自分の課題追究に対する有用感・有能感を高めるようにする。
- ② 発表や聞く視点を明確にもたせることによって、互いに学んだことを共有化し、自分の考えを深めることができるようにする。
- ③ 少人数で交流グループを構成することで、自分の取組について、じっくり発表したり、興味をもってしっかり質問したり、感じ方のちがいや共感したことを丁寧に交流したりできるような学び合いの場にする。
- ④ 「〇〇福祉タウン」にかかわるGTに、取組の成果を共感的に語ってもらうことで、障がい者理解に対して他者との一体感が生まれ、自己の成長を実感できるようにする。それによって、継続的な課題追究への意欲をもたせるようにする。
- ⑤ 「〇〇福祉タウン」の写真や活動の写真を提示することによって、これまでの取組について振り返りやすくする。

10. 準備

（教師）「福祉タウン〇〇」や活動の写真、出会ってきた人の写真

（子ども）発表に使用する表現物、自己評価カード

11. 展開

学習活動と内容	評価規準	支援
<p>1. 前時学習を想起し、本時学習のめあてを確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>本時のめあて 「〇〇福祉タウン」で、調べたことを伝え合おう。</p> </div> <p>2. 報告会をする。</p> <p>(1) 聞く視点を確認する。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>- 《聞く視点》</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 友だちの学びのよさ ② 「〇〇福祉タウン」のやさしさ </div> <p>(2) 「〇〇福祉タウン」で調べたことを伝え合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 追究した課題、理由、追究方法 ○ 施設の目的や工夫、様子など ○ 利用する人や支える人の願い ○ 気付いたこと、思ったこと、考えたことなど (「〇〇福祉タウン」のやさしさについて) <p>(3) 報告会の感想を発表する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 友だちの発表から学んだこと ○ 4つの施設に共通な良さ <p>(4) GTの話聞いて、〇〇福祉タウンのやさしさ(課題1)について話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 活動に対する賞賛・価値付け ○ 「もののバリア」と「心のバリア」 ○ 「バリアフリー」の見方・考え方・態度 <p>3. 自己評価カードを書く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 自分が学んだことを話すことができたか。 ○ 「〇〇福祉タウン」のやさしさを見つけることができたか。 <p>4. 教師の話聞く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 活動に対する価値付け・賞賛 ○ 次時の学習を確認 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>障がいのある人との出会いによって、その願いにふれ、「障がいがあってもみんな同じ」という障がいのある人に対する理解ができましたね。(価値付け) この新たな出会いを通じて、ものの見方・考え方が成長してきました。(賞賛) この学びを生かして、これから私たちにできることは何かを考えましょう。(次時の学習の確認)</p> </div>	<p>【観点】 問題解決にあたっての学び方</p> <p>【評価規準】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 自分が追究した課題について、視点を決めて具体的に話したり、友達との違いや共通点に注目しながら、施設のやさしさについて考えを深めたりすることができる。 <p>【評価方法】 観察・発言 自己評価カード</p> <p>【観点】 自己の生き方への自覚</p> <p>【評価規準】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 「〇〇福祉タウン」がもつやさしさについて、かかわりのある人の願いに共感しながら、考えようとするができる。 <p>【評価方法】 発言・行動観察 自己評価カード</p>	<p>○ 発表の視点(①どんな疑問を持ち、②どう追究したら、③だれのどんな願いにふれ、④どんなやさしさに気づいたのか)を明確にもたせ、相手に適切に伝えることで、課題追究に対する有用感・有能感をもたせる。</p> <p>○ GTから、取組の成果について賞賛を受けることで、自己の成長を実感し、今後の課題追究の意欲を高めさせる。</p>